

会議録

会議の名称	令和7年度第5回朝霞市障害者自立支援協議会専門部会（こども部会）
開催日時	令和8年2月4日（水）午後3時から午後5時まで
開催場所	朝霞市民会館 会議室（梅）
出席者の職・氏名	委員6名（杉田部会長、中村副部会長、齋藤委員、野原委員、福地委員、中田委員） 事務局10名（障害福祉課 竹村課長、伊藤課長補佐、渡邊係長、長谷川主査、大西主任、堂ノ前主事補）・（朝霞市障害者基幹相談支援センター 仲田氏・鳴海氏・塩釜氏・船津氏） オブザーバー1名（児童発達支援センター元気キッズチルズ平野氏）
欠席者の職・氏名	委員2名（風岡委員、助川委員）
議題	(1) ワーキンググループの活動報告 (2) 市内の療育支援の報告 (3) 令和8年度のこども部会に向けて (4) その他
会議資料	・次第 ・朝霞市障害者自立支援協議会専門部会（こども部会）委員名簿 ・資料1-1 朝霞市こども部会からのご相談 ・資料2-1 （議題2）医療的ケア児の支援について ・資料2-2 【アサカツ児発・放デイ】研修会のお知らせ～障害児支援に関する専門的な知識思考を得る～
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間
	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 専門部会委員による確認
傍聴者の数	0名
その他の必要事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・堂ノ前主事補

それでは、定刻となりましたので、令和7年度第5回朝霞市障害者自立支援協議会専門部会を開催いたします。

本日は、御多忙のところ、御出席を賜り、誠にありがとうございます。

私は、司会をさせていただきます、障害福祉課の堂ノ前と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、委員8人中6人の出席をいただいております、朝霞市障害者自立支援協議会専門部会運営要綱第6条第5項の規定により、会議は成立しておりますことを御報告申し上げます。

また、本日は、議題「(2) 市内の療育支援の報告」の中で、療育支援の一つとして関わっていただいている、「アサカツ児発・放デイ」について御報告いただくために、児童発達支援センター元気キッズチルズの平野さんに御参加いただいておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、本協議会の傍聴についてですが、原則として会議公開の立場をとっております。現在、傍聴人は0名ですが、随時入室していただきますので、よろしくお願いいたします。

では、資料の確認をいたします。

本日、机上配付とさせていただきます、令和7年度第5回朝霞市障害者自立支援専門部会（こども部会）の次第。続いて、委員名簿。続いて資料1-1、「朝霞市こども部会からのご相談」。資料2-1、「医療的ケア児の支援について」、資料2-2「【アサカツ児発・放デイ】研修会のお知らせ」

以上となります。お手元がない方はいらっしゃいますか。

それでは、会議に入りたいと存じます。

委員の皆様にご覧がございませう。会議録作成の都合上、御発言の際には、お名前を名乗ってから御発言くださるよう、お願いいたします。

それでは、これより専門部会運営要綱第5条第3項に基づき、議事進行を杉田部会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

◎2 議題 (1) ワーキンググループの活動報告

○杉田部会長

それでは、議題(1)「ワーキンググループの活動報告」としては、本日、午前中に早速行われておりましたワーキンググループについての振り返りをしていきたいのですが、非常に内容の濃い会にできたかなと思っておりますけれども、各委員の方々、良かった点や反省点など何かあり

ましたら、よろしく申し上げます。

では、中田委員からよろしいでしょうか。

○中田委員

皆さん、本当にありがとうございました。午前中、お疲れ様でした。

部会の外で企画をやりましょうということで、調整とか内容をどうするかみたいなところを、基本的には対面でせずに準備していたので、ちょっと今日の朝、最終的なゴールとか、そのもって行き方とかをその場で30分ぐらいのところであまく御調整いただいて、何とか形になったかなと思っております。

ただ、本当は、準備とはそういうものではないと思っているので、こういうことを外に向けてアプローチをしていくというのであれば、ちょっと会議体の方向というのを変えていく必要があるのかなとは思っております。

やっぱり、準備の段階で、対面で役割分担とか方向性の擦り合わせとかいうのは、あった方がいいなとは思いました。あと、今後どうするかということに関しても、できれば、ちょっと今日はお疲れ様でいいのですが、その後のところは、また別のところで話ができる機会があった方が、本当はこの後の展開とかも考えていきやすいなと思っています。

以上です。

○杉田部会長

では、中村副部会長、お願いします。

○中村副部会長

本日は、お疲れ様でした。

幼稚園の方たち向けの会だったので、朝ちょっとお話させてもらったのですが、障害福祉の分野というのは、なかなか難しいなと正直思っているのは、なぜかというと、幼稚園は、幼稚園教育要綱の下で運営されているものなので、保育園は、保育所保育指針が基になって保育が行われているので、保育所保育指針には、生命の根源を守るような「養護」という考え方があって、幼稚園教育要綱には、それは書いていなくて。何か尊厳みたいなことは書いてあるのですが、このぐらいちょっと明確に違うものがあるので、そこに医療的ケア児の支援を幼稚園でしてほしいというのは、なかなか難しいのかなというところがあったので、ちょっと朝、提案させてもらって、あくまでそういった可能性がという話をしながら、ちょっと目を向けていただくような方向転換になったのかななんて思いました。

その上で、保育所等訪問支援事業にちょっと大きく話を持って行って、幼稚園の先生たちの何か顔つきというか、始めは警戒していたのが、何か緩やかになったのかななんていう感じは受けましたので、すごく良かったと思います。

あと、課題抽出の時間のグループワークがすごく良くて、それでやっぱり生の意見としては、やっぱり保育園も抱えているんですけど、入園のときの保護者面談のところだったりとか、その課題感について、初めは受け入れることはできた、取りあえず受け入れてみたんだけど、年中の頃からやっぱり課題行動になったときに、どうやって保護者に理解していただくかというところというのは、やっぱり難しいんだなというのを感じました。

あとは、お母さんの受入れ度合いによって、やっぱり子供の発達のスピードというか、療育に対してポジティブな家庭とネガティブな家庭では、ポジティブな家庭の方が発達って結構行くよね、みたいなお話を生で聴くことができたので、そうかというところを感じました。

おおむね好意的、僕は、もうちょっと幼稚園の先生たちが、児童発達支援が来て場を荒らすんじゃないかみたいな雰囲気があるのではないかと思ったのですが、そういうこともなくて、保育所等訪問支援が来たことによって、分かることがたくさんあったので良かったという意見も出たので、すごく僕自身は、元気を頂いた場になりました。ありがとうございます。

○杉田部会長

野原委員、お願いします。

○野原委員

今日はお疲れ様でした。ありがとうございました。私も、今日初めてワーキンググループということで、自立支援協議会からちょっと離れたところでの取組ということでさせていただいて、やはり、ここのこども部会で取り上げ、やってみたいと思っていたインクルーシブの取組、インクルーシブでの子供たちの関わりというところと、あと、医療的ケアのお子さんのこれからの体制作りみたいなところをちょっとやっていきたいというところで、一つ、自立支援協議会から飛び出して具体的な活動が一つできたのかなと思っております。

今日のお話を、私もグループワークの中で園長先生から聴いて、保育所等訪問とか障害をお持ちのお子さんの受入れみたいなのはすごく進んでいるというか、大分広がって浸透しているんだなというのを感じました。

ただ、その中でやはり、そういった特性のあるお子さんですとか、そういうお子さんに対しての支援でちょっと悩まれているところがあったりとか、実は、障害名が特に付いているお子さんではないけれども、ちょっと気になるお子さんに対して、親御さんに支援がもう少し必要なのではないか、療育が必要なのではないかみたいなお話をしたいんだけど、どういうふうに親御さんにそういったお話をしたらいいのかみたいなのが、とても悩まれる。ナイーブなデリケートなお話なので、伝え方が難しいなんていうのも聴いて、その辺で先生は悩まれているところが大きいのかなと思いました。

あとは、保育所等訪問が、今、本当にいろんな園で入っているんだなというのすごく感じ

て、逆に、今入っている事業所が多すぎて、毎日ほぼ違う事業所の支援員が入っている状態というのを聴いて、私は入れてもらう立場なので、実際、受け入れている園からすると、そうか、今はそうやって入れ替わり立ち替わり、違う事業所が入ってきている時代なのかなというところもあるんだなと思うと、そういったところで園もその対応に追われているとか、どういうふうに毎日毎日、そういった保育所等訪問に入る事業所と連携していったらいいのかみたいところで少し悩まれているところもあるのかなと思って。実際にそういった園での、保育等訪問が入ってみての気付きだったり感想などを聴いて、そういうところも、今、課題なのかなとすごく感じたグループワークでした。新たな気付きが多かったかなと思っています。ここでおしまいではなく、できれば、これを継続的にやっていけるといいのかなと思いました。

以上です。

○杉田部会長

齋藤委員、お願いします。

○齋藤委員

今日は、お疲れ様でした。ありがとうございます。

初めての試みというところではあったのですが、本当に中田委員の御尽力おかげで、企画から資料作成、連絡調整をしていただいたというところと、あと、杉田部会長が幼稚園側の方としっかりと連絡を取ってくださったおかげで、このような会を開くということができたこと、本当にありがとうございます。

とてもいい雰囲気できたというところと、あと、先ほど野原委員からもお話があったように、私たちは訪問する側ではあるんですけど、逆に、あちらでの困りごとみたいなものを聴くことができ、その中の一つに、保育所等訪問支援が活発になっているということは良いことではあるんだけど、訪問の事業所から直接電話が来るときに、いきなり前触れみたいなのがない段階で、担任の先生はいますかということを言われたりとかするので、いきなり個人情報のところもあるので、担任を出すというわけにはいかないの、ちゃんとしたマナーですとか流れとか、親からの事前の説明とか、そういうのが必要ではないかという御意見も頂きました。

この辺は、ちょっと相談支援としても連絡会を通して共有して、相談員としても周知するところでもそうなのですが、関わっている各事業所、保育所等訪問支援をやってくださっている事業所にも、相談員の立場からもちょっと何か一言、そういう感じで流れについてというところを周知していけたらいいかなと思いました。

以上です。

○杉田部会長

最後に、私、部会長の杉田から。非常に総じて有意義な会だったと思います。幼稚園の方の生

の声を聴けたという点では、非常に意義が大きいかなと思います。

医療的ケア児の受入れについては、実際に受け入れているところもあるのかもしれませんが、なかなか経営的な問題、人手の問題もあって、オープンにして受け入れるということは、非常に困難であるという実態を聴きました。あと、発達支援が必要なお子さんについても、親御さんへの理解、これが非常に大きなハードルで、それがなかなか進まないケースが多いという点と、早期から児童発達支援に通っているお子さんは、結果がそれなりに出ているのではないかという意見がありました。

児童発達支援に通っている子と、通っていない子との比較についてフィードバックを我々受けることが少ないので、1人の子供を見ているだけでは、それが本当に効果があったかどうかは分からない。発達支援施設に通っている子と、通っていない子の比較ができて、非常に大きな情報であったと思います。いろいろ賛否あるとは思いますが、それなりに効果を出している制度なのかなというふうには、実感いたしました。

あと、私のところに、小グループで一緒になった幼稚園の方は、保育所等訪問支援の実績と言っていました。電話がしょっちゅう掛かってくるということを言っていたのですが、それで代用されているということなんでしょうか。

○中村副部長

それは多分訪問支援ではなくて、関係機関の連絡のことか、何だろうか。

○杉田部長

だからちょっとそれが、その方は言っていましたよね。

○中村副部長

受けていないと。

○杉田部長

受けてないというふうに言って、しょっちゅう電話は掛かってくるけどみたいなことを言っていたので、そのことか。私の頭の中で、保育所等訪問支援事業の一環としての電話、フォローアップなのか実際に訪問していないのか、よく分からなかったもので、そこは、今後確認が必要かなと思いました。細かいことではありますが。

あとは、また今度は幼保小連携というような話もありますし、これで終わらせることなく、第二弾、第三弾という形で進めていけたらなということでした。

今日は、本当にありがとうございました。以上です。

今までの話として、追加、何か御意見。

中田委員、お願いします。

○中田委員

今、お話を聴いて、ちょっと今後のお話につなげる部分に触れたいと思います。

今日、中村委員からお話があったところで、すごく共感された部分が、「子供たちが地域で育っていくことを大事にしたいです。成人式にその子の年齢が達するときに、友達がいるということが、とても大事なんですよ。」というようなことをおっしゃっていて、特別支援学校は、今もうばんばんで、もう一つ新しい障害カテゴリーの学校を作るくらい的人数は、どんどん増えていくけど、そういうことではなくて、それぞれの地域の、我々の機関で多様な子供たちを受け入れていくということができたらいいなというなお話があったと思っております。

これは、やっぱり経済的な支援というのが、基本的には加配を付けられるわけではないので、幼稚園側の負担を掛けた上に、経済的な負担とか、人というところを個別にお願いした上で受け入れているというところが少しあるかなと思っております。こういう部分は、県としては、埼玉県の特設支援教育補助金みたいなのはあるのですが、多分それだけでは、加配と釣り合うか釣り合わないかという、きっと足りないんだろうなとは思っております。

では、受け入れたいと思ってくれたときに、そういう経済的なサポートというのを、ある程度できる環境が必要なのではないかと思うんですけど、こういったところを話す会議体というのは、やっぱりちょっと障害の関わるような会議体ではないと話ができないだろうなと思っていて、保育課とかが主軸になるような子ども・子育て会議で、ちょっとこの話題って、どうしてもメインストリームで入れない部分かなというふうに思っているんで、ここの会議体は障害福祉課なんですけど、こども部会になったことで、横連携も取れるというふうにせっかくなっているんで、どういう経済的支援があれば、やる気のある幼稚園というところも、今、それぞれの園の負担でやっている部分が楽になるのかな。そこが楽になれば、今後受け入れていくときも継続して新しい子供が入っていきたいとなったときにも、もう1人いけるかなとかいうことが考えられると思うので、ちょっとそういったところのアプローチで必要なものというのを検討していけるようになったらいいんじゃないかなというふうに、この後をどう続けていくかという部分については、ちょっと思ったところではあります。

以上です。

○杉田部会長

私もそんなに詳しくないのですが、さっきの埼玉県の特設支援補助金、ちょっと今調べたのですが。

○中田委員

1人につき78万円、そんな感じのやつですね。

○杉田部会長

それが、まあこの金額では、学校法人の方が動けると決断できる金額ではないということになるのかどうか。

○中田委員

そうですね。フリーの先生がいればみたいなお話が、グループワークのときにこちらの中ではあつて、年間で70万円もらったぐらいで、そのフリーの先生をどの程度置けるというんだというような感じだったので、きっと人件費から比べたら足りないのだろうなと思います。

○杉田部会長

ぱっと見で保育園の9時から15時の時間、今の時給で年間240日で呼ばれたら、250万か300万くらい、最低でも必要になってくると思われれます。人件費も場合によっては園の持ち出しが出てしまうと。それをどこかに要望として吸い上げていくということになるかどうか、これは幼稚園協会のオーナーの仕事にはなるのですが、ちょっとこれだけだと、現状は厳しいと。

○中田委員

そうですね。あるべき状態のこうだと描くものができるのであれば、じゃあ別に、今そうやって幼稚園がせつかく朝霞市の中にたくさんある状態なので、市としては、ここのサポートはどうしていきますかみたいな話が、自治体でできていけばいいなどは市民として思っております。

○杉田部会長

はい、どうぞ。中村委員、お願いします。

○中村副部会長

朝霞市が、私立幼稚園があるということが豊かな社会だと話をさせていただきました。

昨日もですね、埼玉の春日部と松伏とか久喜の認定こども園の方と話したんですけど、みんな認定こども園なんですよ。私立幼稚園はないんですよ。こんなに残っているエリアはないということは、イコール子育てに対して親が少しまだ余裕があつて、向き合える時間の多い家庭があるのは朝霞市と定義すると、とても豊かなまちなんだなというふうに思っているんで、どうにかその豊かな市の文化というのは、残していったほしいと思っておりますが、時代が保育園優位だったりするし、その中で障害がある子供たちも幼稚園に、何というか課題が多めの子が幼稚園に行くということが、いい。いいって何がというと、受け入れてくれる幼稚園が増えることによって存続できたりとか、共存できたりということの未来を考えるのであれば、市としても考えていただきたいなと思います。トータルに見たときの子供の幸せを考えたときの、地域を考えたときに、それってとても大事なことなのかなというのを、ちょっと思いました。

以上です。

○杉田部会長

あと、どなたかございますか。

私からいいですか。これは、会議が終わった後の話、ほかの幼稚園からの話だったのですが、私が以前から問題点として指摘していることですが、親御さんがなかなか理解してもらえないと一歩踏み出してもらえない。子供のことを指摘すると関係が悪化するという、非常にジレンマを抱えていると。

幼稚園、保育園以外の専門的な立場からの、何かしらのサジェスションがあると非常に話しやすいと。そのうちの一つとして、児童発達支援からの一言もあると後押しになるのですが、一番大きなのは医療側の後押しで。今、この地域でそれが最も不足していると思います。発達支援、発達障害のある方に正確な評価をすることが、必要な需要を満たしておらず、評価されないまま、そのまま普通級に進級した後にトラブルを起こすというケースが非常に心配されているという、医療者側の方の問題もあります。

それを医療者側だけで、今現在、新たに機関を増設するとかそういうことは、現実問題難しいので、これは以前も何回も言っているように、一つの公的な、公設公営の機関でもって評価の手助けをするような、需要のほぼ100%に近づけるような、そういったファシリティというものを創設することが一番いいかなというふうに思っております。

あとは、これは我々の方の問題で、小児科医の中で発達障害に対する理解のない医者がかかりいるということ。これは、最終的には世代交代しないといけないんじゃないかとは、個人的には思っているんですけども。発達障害の問題を患者さんに指摘したら二度とその医療機関には行かなくなり、大丈夫だよこんなの病気じゃないからと言ってくれる医師を探して放浪するケースがあります。そのような実情を幼稚園の先生から聴きました。皆さんの小耳に挟んでおきたいと思えます。

では、次の議題に行ってもよろしいですか。

◎2 議題 (2) 市内の療育支援の報告

○杉田部会長

議題2「市内の療育支援の報告」について、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局・大西主任

医療的ケア児の支援について、大西から説明させていただきます。

議題2、資料2-1を御覧ください。よろしいでしょうか。

朝霞市の現状として、令和7年12月1日現在に、32人の医療的ケア児を把握しております。前回から、新たに把握したお子さんが、3人います。経管栄養のみが2人、吸引と経管栄養

が1人です。また、1人医療的ケア児から外れたお子さんも把握できました。年齢により、児から者へ移行となります。そのため、現在32人となっております。

続きまして、災害時個別支援計画につきましては、作成済みが3人となりました。

資料についての報告は、以上です。

また、朝霞市の療育支援の一つとして関わっている「アサカツ」について、元気キッズ平野さんから御報告いただければと思います。

○オブザーバー・児童発達支援センター元気キッズチルズ平野氏

「アサカツ」なんですけれども、朝霞市内の児童発達支援事業所と放課後等デイサービスが横につながって、朝霞全体で療育というものの底上げみたいなのをしていけたらいいなというところから始まり、朝霞がつながっていこうということで、「アサカツ」と命名して活動させてもらっています。

基本的には、年に3回ぐらいの設定をさせていただいて、よく言う1学期、2学期、3学期みたいな感じで、1回ずつ開催しております。今年度に関しましては、7月と11月に開催をしております、もう1回は3月にやる予定になっております。

内容に関しましては、事業所の皆さんにどんなことをやりたいですかとアンケートを取らせていただきつつ、毎年内容を精査しているというようなどころではありますが、やっぱり漠然とした何がやりたいかと、さほど出ないのが現状かなというところなので、まず、1回目は、各事業所の自己紹介みたいなことをさせていただきつつ、春を越しているの、空きの状況などの情報共有などもさせていただきながら、「ああ、あそこの施設空いているんだね。」「あそここんなことやっているんだね。」というふうに、まずは朝霞で何をやっているのかということ、それぞれが把握するというような機会を設けることが多いです。

2回目に関しましては作業療法の先生をお招きしまして、実際、お子さんたちって、今どういう世界を見て過ごしているのかということ、感覚の部分というところのお話をさせていただきながら、各事業所で気になるお子さんがいたら、こんなケースのときどうなんだろうというようなことを発信していただいて、解決できることは解決の手立てを見付ける。持ち帰ってもらって、何か活動に生かしてもらおうというものをやっています。

これは、毎年とは言わないのですが、結構、定期的にやっています、同じ内容をお話していただいているのですが、結構、そのときそのときの事業所で、今この子をどうしたらいいかなというのに、戸惑っているお子さんが毎年変わってくるのは事実だと思うので、そのときどきで聴いている内容がちょっと違って聴こえるという不思議な機会なので、これは1年に1回、又2年に1回とか定期的にやっていきたいなと思っております。

昨年もこれをやらせていただいている、各事業所で、去年は僕が行ったから、次はあなたが行

きなよみみたいな感じで、違う職員の方が来てくださっていたこともあり、午前中は45名とか結構な人数が来てくださって、ちょっとチルズのパイプ椅子が足りなくなっちゃったみたいな盛況をいただいたので、有り難かったなと思っています。

3回目、今回は、11月にやらせてもらった、感覚というものの勉強会を持ち帰ってみて、実際やってくれていると信じているので、どうだったかというような振り返りも踏まえて、3回目も実施しようかなと思っています。

アサカツに関しましては、午前中の開催にしてみたり、午後の開催にしてみたりというのをいろいろ試行錯誤した結果、やっぱり皆さんおっしゃるのが、午前にしたら午前にしたで、参加ができない。午後にしたら午後にしたで、指導があつて参加ができない。誰かしら参加ができないのは悲しいなと思ったので、本年度は、1回目も2回目も3回目ですけど、午前も午後も同じ内容をやりますというようなアナウンスにして、どこの時間でも来れるといいなという感じでやらせてもらっています。

次に、一般相談ですけれども、書かせてもらいましたとおり、昨年の件数と今年の件数の人数を書かせていただいております。こちらに関しては、特にチルズの方から、ホームページには載せてはいますが、大々的にこんなのをやっているよとチラシをまいたり、アナウンス等々をしていないのもあり、あくまでお問い合わせの電話があつたものの計算になっています。なので、今年の12月とか9件、結構多かったなというようなことがあつたり、昨年で言うならば、7月と9月が、8件、6件みたいな感じで、急に今月だけ多いなみたいなときはあるのですが、保護者の方から情報を伺ってはいますが、はっきりと、だから今月は多いんだみたいなのはちょっと見付けられていないというのが現状になっています。

御相談の内容ですが、今年度は特にですが、園から指摘を受けての御相談が多かったなという印象です。なので、書かせていただいているとおりののですが、御家庭ではさほど違和感を感じていないまま、相談にいらっしゃっているという感じなので、何が困っているのというような質問をしても、さほどは出ない。園でこう言われましたというような感じのお話が多かったかなと思っています。ただ、ここの☆印にも書かせていただいたのですが、うちの療育に関わっている期間がすごく長い、ベテランの職員とかから見ると、9割ぐらいのお子さんは、療育に通ってみてもいいのではないかなというような印象があつたりはするので、やっぱり園の先生が感じていて、保護者の方に声に出して伝えて、こういうところに相談に行ったらと言われてただけはある、みたいなお子さんではあつたかなというような印象です。

あとは、もう1個多かったのは、就学前に聴いておきたいことがあるというような、小学校に上がる目前のお母様で、パタパタと駆け込みで御相談に来た方もいらっしゃったなというような印象です。こちらに関しては、先生に何かを言われたということはないようなのですが、ずっと

ちょっと気になってはいた。でも、特に誰かから何か言われたわけでもないから、ほわっとしてみただけで、学校に行くとなったら、平気かしらみたいな感じの御相談内容があったなという印象です。ただ、こっちのお子さんたちは、逆に発達検査をしたときに、もしかしたら数値が高く出る可能性があるなというお子さんが、やり取りができたお子さんが多い印象だったようです。しかし、ここにも書いたのですが、目の使い方だったり、手先の不器用さだったりとかというところでのフォローが必要だろうなという感じのお子さんが多かったので、療育の行き先によっては、療育に行ったからといって、その部分がぐんとして育つかと言われると、少しこちらとしても悩ましいかなというような課題のお子さんがいたかなと思います。

もう一つは、学童訪問をさせていただいております。こちら、年に2回やっておりまして、前期、後期みたいな感じでやらせていただいておりますが、御覧いただいているとおり、昨年度の前期で2件ぐらいしかお問い合わせがなくて、私たちの方からFAX又はメールで学童の事業所にバツと一斉に、相談みたいなのができる機会があるけどやりますか、やりませんかみたいな問い掛けをさせていただいております。その中で、来てほしいという御要望のところに行かせていただくという流れを取っています。

昨年の前期辺りは、多分、FAXが行っていてもすぐに裏紙にされてしまったりとか、メールを送っていても、多分何か違う、どこここぐらいな感じで、気に留めてもらっていなかったのかなという印象だったのですが、コツコツとこんな事業をやっておりますので、お金も掛かるわけではないので良かったらみたいなことをやり続けていた結果、今は、安定して10件前後でお問い合わせを頂くことがあるかなという感じになっています。

こちら、学童の訪問に関しましても、やっぱり個人情報のこととかがありますので、私たち、行かせていただきますが、どこまで先生に聴いていいのか、先生もどこまで私たちにお子さんの個人情報を打ち明けていいのかみたいなところは、若干の戸惑いがあるかなというところと、あとは、学童の先生だからというわけではないのですが、結構、ざっくりと2年生の子供たちが全員気になるから見に来てみたいなオーダーとか、この子とこの子だけではなくて、ちなみに何人いますかと聴くと14人とか言われたりして。うちの職員が何回訪問に行けば終わるかなと言いながら、ちょっと出動してたりとかしています。なので、抽象的に困っている先生が多いのかなという印象が、学童では多いので、ちょっと私たちもアドバイスとしては、一般的な、こういうお子さんにはこういうパターンが入りやすいと言われていたよという内容のアドバイスでとどまっていることが多いかなという印象です。

メインどころは、こんな感じでやらせていただいておりますので、引き続き頑張っていこうと思っております。よろしく申し上げます。

○杉田部会長

今の御報告について、委員の方から御意見ございますか。

○齋藤委員

質問よろしいですか。

出席された人数が45名ということで、とても大盛況だと思うのですが、事業所的には、何事業所中何事業所とか、ちょっと具体的に。声を掛けたのがどのぐらいとか。

○オブザーバー・児童発達支援センター元気キッズチルズ平野氏

全事業所はいらっしゃってなくて、一つの事業所から多くて3名ぐらい来てくれていた事業所も中にはあったのですが、今回は設定の日が悪かったのか、その日は施設の研修日なので行けませんみたいな事業所もあったりしたので、その辺の方たちは一切来てなかったなという感じなのですが。

○中村副部会長

児童発達支援は、26施設でしたっけ。全体で。多機能と混ざっちゃうからよく分からなくなっちゃうんですね。

○齋藤委員

イベントでも一緒になると、結構事業所の数は多いのかなと思っていて。一施設に1人ずつ出席となると、かなり出席してくれているのかなと思ったのですが、今のお話を伺うと、一つの事業所から3名という感じだと、事業所の出席率としてはどういう感じのかなというふうには、感じました。

ただ、横の連携というのができたというのは、すごく素晴らしいことだと思ひまして、私たちも相談支援事業所の連絡会ができたことによって、すごく情報共有というところではできるようになっていますので、そういうところで放課後等デイサービスと児童発達支援、しかも放課後等デイサービスは放課後等デイサービスで、児童発達支援は児童発達支援というのではなく、そこが一体になって連絡する場があるというのは、素晴らしいことだと感じました。

○杉田部会長

そのほか、委員の方。

中田委員、お願いします。

○中田委員

中村副部会長に聴いてしまいますが、学童訪問はどういう仕組みの中でやっているかというのと、保育所等訪問支援みたいな何か制度があるものではなくて、任意でやって。

○中村副部会長

イメージは巡回。

○中田委員

市の巡回相談みたいなイメージですか。

○中村副部長

市の巡回みたいなイメージのものと。巡回でもないですね。問い合わせがあったら行くので、何か特定の子に対して行くものではなくて、全体に対しての何か相談を受けるような感じの事業です。

○杉田部長

齋藤委員、お願いします。

○齋藤委員

保育所等訪問支援を使って、学童に行っていたらという例もあります。そういう場合は、本当に個別にこの子に対してというところですけども。通常級に通っているお子さんで、療育を使っているという方もいらっしゃるって、そうなるとその子は学童に行っているという例もあるのですが、そういうときに学童の先生が困っているという話もあったりして、そういうときには、保育所等訪問支援を使って学童に行っていたらという例もある。

○中村副部長

これは、朝霞市からの委託事業のうちでやる事業の報告なので、保育所等訪問とは違う。

○齋藤委員

違う感じですね。

○中田委員

委託事業の中で、話が混み合っけきそうになったなとなったら、保育所等訪問支援という形で行くこともできますよとかって言えば、細かいやり取りができるようになってくるのかなと想像しました。違いますかね。

○中村副部長

個人情報。

○中田委員

そうです。個人情報のところ。

やり取りしていこうとなったら。

○中村副部長

巡回指導の中で、保育所等訪問支援事業を使いましょうみたいな伝達はしないですよ。

○オブザーバー・児童発達支援センター元気キッズチルズ平野氏

しないです。

○中村副部長

そういうのは、あまりできないかもしれない。

○中田委員

なるほど。そんなに行ったり来たりするものではない。

○中村副部長

ではなくて、そうすると、センターとして難しい立ち位置。

○中田委員

そうか、中立的な立場を守れなくなってしまう。なるほど、難しいですね。

○中村副部長

そこは、別ものとしてやっているの。ただ、一般相談を受けるときには、この事業所は、こういうのをやってるよみたいなことは流す。

○オブザーバー・児童発達支援センター元気キッズチルズ平野氏

はい。

○杉田部長

そのほか、御意見ございますか。

あと、私からよろしいでしょうか。交流会は、大体半分以上は出ているのかなと思うのですが、以前もちょっと問題になった児童発達支援施設、要するに、教育要綱みたいな基準があるわけではなく、それぞれある程度自由度が高いケアをしているかと思うのですが、施設間の内容の違いみたいなものを交流会の中で大きく感じたことは、ありましたでしょうか。

交流会、みんなが話し合いとかしている中でですね。すごく一生懸命、高度なことをやっていらっしゃる場所もあれば、意外とそうでないところもあるといった、そういった形の差というのを感じたことはありますか。

○オブザーバー・児童発達支援センター元気キッズチルズ平野氏

そこまで療育的なことを、こんなアプローチをしているよという深い内容まで話は、今、言われてみれば出ていないなというような印象があって、長く預かっている施設であるとか、短い範囲でこんなことをやっていますみたいな話は出るのですが、その話を聞いた結果として、すごく深い療育をやっていますね、ここみたいなところまでは、つかみにくかったなというのはあります。

○杉田部長

分かりました。ありがとうございました。

今、ちょっと朝霞市のホームページで調べましたけれども、障害者通所系サービスは、28か所登録されています。保育所等訪問支援が17か所、放課後等デイサービスが30か所です。

いですか。

○事務局・渡邊係長

杉田部会長がおっしゃったように、今、一覧で最新のというのは、その施設数になるかと思えます。先ほどの平野さんの集まりは、多分、全施設にお声掛けはさせていただいてと思うのですが、この一覧に載っている中でも、母体が同じ会社が運営していたりとかいうところはあるので、どうしても全施設数が集まらないという実情はあるのかなとは思っています。

以上です。

○オブザーバー・児童発達支援センター元気キッズチルズ平野氏

数字が出ました。お待たせしました

午前中は、17施設の事業所の方たちが集まってくれていました。午後に関しては、6施設の人たちが集まっています。

○杉田部会長

では、6割ぐらいは集まっている感じですね。

ありがとうございました。

あと、御意見ございますでしょうか。

感想ですけれども、園からの指摘で動き出す保護者は多いですね。園から指摘されて、やっぱりそうだったかと思いながら動き出す人もいれば、何か言われたから来たという人も多いので。実際、心当たりのあるお母さんは、意見書を希望して来るわけですね。それで話を聴けば、いろいろ細かく情報が出てくる。神経発達症の有無など医学的判断をした上で、意見書に署名をします。ただ、自覚のない親御さんが来た場合、保育施設から行けと言われて来ただけの人もいて、詳細な状況が全く説明できない保護者もいます。非常に対応に困るというケースが多くて、この後何回か通ってもらって、よく話を聴いているうちに、やっぱりそうだねというふうに確信を持つことも多いです。

一時期、必要がないのに意見書ばかり書いている人がいるのではないかというような意見もあったようですが、私の限りにおいては、アプローチをしてくる患者さんは、園からの指摘を受けている方が多く、ほぼ間違いないかなという印象があります。中には、ちょっと何を言っているか分からないからといって、もう1回やり直しという方もいましたけど。ほぼ、園からの指摘は間違いないと、経験上、私は思っております。

実際、意見書を書いていると、5分診療で話を聴いて、書くというのは、非常に難しい難儀なことで、あとで出し過ぎではないかと言われたらどうしようみたいに考えてしまうのですが、園からの指摘というのは非常に重い一言だなというふうには思いました。

すみません、以上、感想です。ありがとうございます。

そのほか、何かございますか。

では、よろしいですか。

では、次の議題に行ってしまうてよろしいでしょうか。

◎2 議題 (3) 令和8年度のこども部会に向けて

○杉田部会長

それでは、議題(3)「令和8年度のこども部会に向けて」、委員の皆様が事務局へ提出した御意見を共有してもらえればと思うのですが、齋藤委員からお願いしてもよろしいでしょうか。

○齋藤委員

来年度の部会に向けてというところで、アンケートが来たところに記載させていただいたのがあるのですが、それはちょっと解決、その中の一つに元気キッズからお話を聴きたいみたいなどころだったのですが、そのところは大丈夫ということで。

今後というところでは、今までのこども部会の中で、テーマはたくさん出ていて、テーマというか地域課題がたくさん出ていたので、一度それを整理してどこからやっていくかみたいなどころを1回話し合って、地域課題というのかなり出ていると思いますので、そういうところをやっぱり丁寧に。それと、災害時個別支援計画書のお話も出たときがありまして、そのところでは、医療的ケア児等コーディネーターという立場でも進めていかなければいけないというところを感じております。

平野さんに今日出席いただいているのですが、元気キッズチルズの方でも一応、医療的ケア児の方に関わってくださっているということで、連絡を取り合っています、そのところで、今後どのように進めていけばいいかというところとか、最終的には、ほかの相談員も進めやすくできるように、フローチャートのものとかそういうのができたらいいかなという話をしている段階です。なので、今後一つの事例を基に、今後の仕組み作りというのができたらいいかなというふうには思っております。

以上です。

○杉田部会長

あと、本日欠席されている風岡委員から御意見を頂いております。事務局の方から。

○事務局・堂ノ前主事補

本日、欠席されている風岡委員の方からも御意見を頂いておりますので、共有させていただきます。

風岡委員からは、協議会の回数や時間の都合上、議題をできるだけピンポイントにしていかないと話が進まないのではないかとということと、委員の皆さんの専門分野も違うので、委員の皆さ

んから出た意見の中でこれは問題だというところをできるだけ具体的にピンポイントで議題として上げていくべきなのではないかという御意見を頂いております。

よろしく申し上げます。

○杉田部会長

ありがとうございました。

では、野原委員。

○野原委員

私が今後、自立支援協議会で検討できるといいなと思うところですけども、幾つか課題があるのかなと思ひまして、朝霞市の課題みたいところで三つほど考えていました。

今日のワーキンググループで取り組んでいるところもあるのですが、一つ課題としては、医療的ケア児の実態把握とか体制作りというのが、これからできるといいのかなと思っております。

医療的ケア児コーディネーターの連絡会も最近できたといったところでは、その会議体をうまく活用して自立支援協議会と連携して、何か医療的ケア児の現状や課題について考えられるといいのかなと思ひました。

また、二つ目の課題としては、やっぱり教育と福祉、幼稚園・保育園と福祉というような連携ができると、より良いのではないかなと思っております。今日も園長会で、保育所等訪問支援の説明をさせていただきましたが、例えば学校側の方にも、実は保育所等訪問支援があるんだよとか、放課後等デイサービスが市内には何か所あるよみたいな、そういった福祉サービスを知る機会というの、あっていいのかなと思っております。福祉と教育、福祉と幼稚園・保育園みたいな連携できる関係作りというの、今後やっていけるとより良いのかなと思ひまして、二つ目の課題として考えました。

三つ目の課題としましては、幼少期や学齢期の発達相談機関の充実がされるといいなと思っております。今日のワーキンググループの中でもお話があったのですが、やはり何か園で気になるお子さんがいるなと思ったときに、先ほども、園から保護者の方に伝えることが難しい、そういったときにどこか発達を見てくれる公的な機関、相談機関があるとそこに促しやすいというお話もあったので、そういった朝霞市としての発達相談センターみたいところ、幼少期又は学齢期の発達の相談ができる機関が、一つできるといいのかなと思ひました。本当にこのお子さんにとって療育が必要なのかどうかといったところや、親御さんの発達のお悩みというところを相談に乗ったり、見極めたりできる、そういった機関があるといいのかなと思ひまして、そういった機関の充実について考えていけるといいのかなと思っております。

幾つか課題は挙げたのですが、全体的にやっぱり先ほど風岡委員からもありました、こども部会で取り組む範囲が広すぎて、なかなかピンポイントで取り組むというのが、難しいかなとちょ

っと思っております。なので、例えばその年ごとに一つ、自立支援協議会で取り組むテーマを決めてじっくり検討していくとか、または、会議体をちょっと小さくして行って、具体的にその会議体で取り組むなど、少し具体的に動けるような仕組み作りみたいなものができるとうまいのかなと、全体的なところでは思っております。

以上です。

○杉田部会長

では、中村副部会長。

○中村副部会長

箇条書きで書いてしまったのですが、幾つか書きました。

障害福祉の児童分野の課題について深堀をしたいなと思いました。ちょっと、今年の6月から新規の事業所に対して、児童発達支援、放課後等デイサービス、就労支援B型、グループホームの報酬単価が下がる、1から3%下がると言われている背景には、不正請求だったりとか、質が伴っていないのではないかと、過度に利益を上げているのではないかと等のいろいろ財務省の意見が多分に反映されて、厚生労働省としてはそれをやっていくというのが出ている中で、朝霞として、どんな課題、児童分野の課題があるのだろうかというのは、ちょっと見直さなければいけない分野かもしれないと思います。

ただ、別に悪者探しとかそういうことではなく、イコール養育支援の質の改善というところが何かできることがあるのかな。それぞれ思いがあって事業所を立ち上げているので、押し付けがましいことは難しいと思いますが、例えば評価スケールの使い方とか、本当に初歩の初歩みたいなこととか、個別支援計画の書き方じゃないけれど、考え方みたいなこととか、国は示しているんだけど、それを十分に活用できてないから、ほんわりした感じにしかできないんじゃないかとかというところも考えたらいいなと思っております。

あと、相談支援体制の充実。こちらは、処遇改善加算が大きく上がると決まったので良かったなと思って。特に、部会では必要ないかなと思っております。

あと、保育・幼稚園・教育関係の中で、障害の有るなしに関わらず、保育園・幼稚園に行つて、課題がある子たちへの保育を行うために何ができるのかということは、今日の中田委員が動いてくださったみたいな、こうすることによって、少しずつ認知が広がっていくのかなと思っておりますので、そういうことをやったらいいなと思っております。特に、保育園がやっぱり生活を見る、保証していくということが求められる場所であるので、保育に欠ける子供たちを擁護する義務がある、保育園がもうちょっとしっかりと意識を持ってやれる環境になったらいいなとも思っておりますので、幼稚園というよりも保育園の先生たちに向けて少しアプローチを強くできたらいいいのではないかと思いました。

以上です。

○杉田部会長

福地委員、ありますか。

○福地委員

私の方は、精神科の救急対応の方を主にやっている職員でして、緊急対応が重なることもありまして、部会ですとかワーキンググループの活動に出席できませんでしたが、共有いただいた資料を通して、今年度の取組は把握しております。皆様ありがとうございます。

私からは、先ほど御報告いただいた午前中の内容もいろいろ聴かせていただきまして、来年度に向けてということでのお話をさせていただければと思います。

本日の説明会で得られた現場の声というのは、受入れに際しての不安ですとか課題の傾向ですとか、受入れの事例から見える工夫と成功事例など、また情報共有の仕組みですとか、関係機関との連携の取り方といった横展開できる内容があったのではないかなというふうに、皆さんの報告を聴いていて思いました。生の声から上げていくというのは、すごく重要なことで、先ほど予算の関係、補助金の関係でも中田委員からもありましたが、こういった私たちの専門的などところでの話を上に上げていくときに、やっぱり現場の声を入れていくというのは、非常に説得力のある内容だなと聴いていて思いました。

医療的ケア児の支援は、医療・福祉・教育の連携が不可欠なので、今後も取り組むべき重要な課題かなというふうには思いました。しかしながら、先ほどの話の中でも、こども部会としての取り組む課題が多岐にわたるといふところもありますので、テーマごとに柔軟に動ける体制が求められているのかなというの、反面思いました。

他市でも、保健所は、幾つかこういった部会に参加しているのですけれども、私が参加しているのはここだけですが、話を聴くと、こども部会の中にプロジェクトチームを幾つか作って、医療的ケア児の問題ですとか権利擁護の関係とか、いろいろ対応しているというふうなところも聴いております。特定の課題に焦点を当てて検討を深める仕組みとしているというところも話を聴いております。朝霞市においても、位置付けとかいろいろ難しいかもしれないのですが、プロジェクトチームの位置付けとかを明確にして、継続的に活用していくことができれば、質の向上につながるのかなというふうに思いました。ちょっと簡単にこういった会議体を変えるというのは難しいと思うのですが、そういったことを感じております。

今年度の説明会で得られた何か現場の声を踏まえると、来年度、例えばそれにつながって、単年度で終わらせないで、受入れの流れや相談窓口の見える化をしたりですとか、成功事例の整理というか、横展開のところを高めたりとか、保育所等訪問支援の活用方法の明確化と私は思っていたのですが、お話を伺うと結構使われているということだったので、その部分も実務に結び付

くテーマをプロジェクトチームで扱うことができると良いのではないかなというふうに感じました。

保健所の委員として会議に出席できない場面もありますが、日頃の相談支援で得られる情報を必要に応じて皆様と共有して、事務局や委員の皆様と協力しながら、より良い支援体制作りに貢献できればと考えておりますので、ちょっと今日も、この最後だけ参加するのはどうなのかなと思ったのですが、時間を何とか押さえられましたので、どういうことをやっているかとか、朝霞市ではどんな動きがあるかというのを知るためにも、やっぱり参加させていただきました。今後ともよろしく願いいたします。

○杉田部会長

中田委員、お願いします。

○中田委員

もう皆様がある程度おっしゃっているとおり、検討ですとかアイデアベースのお話はもうたくさんしてきたので、これからは実践とか詳細を詰めて行くフェーズを取りたいというのは、私も同じ意見です。

ちょっとまたアジェンダを設定していただくとか、会議の招集を掛けていただく、課題を出していただくというところに関しては、やっぱり事務局にやっていただいているところになるので、私たちが話したことを要望だけ言ったというふうにならないためにも、事務局と委員というのが、同じ目標に向かうパートナーシップというのが必要になると思っています。

もし、現在の開催頻度でそういう具体的な作業が難しいというようなところがあるのであれば、ちょっと来年度の開催の回数ですとか、作業部会みたいなところを設置して再編していくということも検討の一つとしてはいいのかなと思っております。

先ほど、齋藤委員がお話されていた、例えば災害時個別支援計画、ちょっと優先順位とかもいろいろあって、整理してどれをやるかというのは、どこかで決めないといけないとは思っているのですが、例えばそれをするという事になった場合は、今は、作成中の人が3人いて作成が終わった人が1人です。多分、これは5年ぐらいやってこの人数だと思っていて、でも、人工呼吸器になると、これに対して5人いて、人工呼吸器の人はこの中に何人いるか分からないのですが、ある程度、ちょっと災害というところがいろいろな地域で起こるケースが多くなってきている、天候が荒れたりするのでということを考えて、最低限、ここまではこのタイミングまでに作成が必要であろうみたいな目標感を持ってやった方がいいとは思っていて、それに対して、じゃあこのスピード感でやるためには、何をどういうふうに整理するべきなんだろうかというふうな具体的な検討をこういう場で話していければ、やはり医療的ケア児等コーディネーターの資格をお持ちの方もいらっしゃるし、そこを絡めるネットワークをつなげて、じゃあこういう展

開で協力してもらおうみたいな話ができたりすると思うので、そういったことが今後としてできればいいのかなと思っております。

事務局は、本当に事務に徹するというよりは、ちょっと決めるための、じゃあ今回はここまで決めましょうみたいなところを、一緒に足並みを合わせてやっていただければとてもうれしいなと思っております。

以上です。

○杉田部会長

私からは、やっぱり発達相談機関、受入れ支援体制の充実をやっていかなければいけないと思います。そのための医療の遅れが顕著です。内服治療で治る子が、そこまでたどり着いていないというのを、何とかしたいというのは、私の立場から言いたいと思います。民間に頼るだけでは、多分、不可能だと思います。

あと、先ほど中田委員から出たように、災害時個別支援計画の作成が非常に遅れているというのが、気になる。毎年夏に洪水のニュースが流れます。そこに誰もいなければいいなというふうに思いながら見ているのが現状なので。

先ほど、作業部会を細かく分けてという話が出ましたけれども、それ専門に集まるということは確かに必要かもしれません。そうすると、この人数ではなかなか難しいので、更にちょっと人数を増やしてやっていかなければいけないのではないかなと。例えば医療関係の部会だったら、私1人ではなく、もう数名ほど追加する、あるいは、発達支援施設に関することであれば、更に追加してもう少し増やしてとかという形でやって行かなければいけないのではないかなと思いました。

私からは、以上です。

よろしいですか。ほかに、何か御意見。

では、今頂いた御意見を踏まえて、令和8年度のこども部会で行う内容について検討していただきたいのですが、皆様の意見は、何か良い御意見ございますか。

○中田委員

これは、どんな感じで進めれば。全部こっちで決める形。まず、進め方の確認をしたいです。

○杉田部会長

すみません、私これ、議事の進行表に沿ってやっているのですが、取りあえずそれで、来年度に向けての意見交換というのをやっておりまして。

○中田委員

でも、意見をこうやりたい、やりたいと言っても、結局、会議を開くのは、事務局が回数も決めるし、場所も決めるし、人数も決めるので、じゃあこうやりたいんだったらこうしましょうと

いうふうなコミュニケーションが取れないと実現できないのではないかと、今の話を聴いていて思うのですが。今日の、実際にじゃあ何かやっついこうとなったときの進め方みたいなのところも事務局からは何もなく、ここだけで話す感じですか。

○杉田部会長

課長、お願いします。

○事務局・竹村課長

今、委員がおっしゃられたとおり、我々としては、こういった分野について、皆さん今、御意見を頂いたところでございますので、例えばこの中で一つに絞るのか、今、お話の中では、作業部会を作りたい、あるいはちょっと実践的に進めていくための人員の確保であったりですとか、会議の回数を増やしたいというお言葉があったかなと思うのですが、それについては、事務局として、あまりお金の話は本当はしてはいけないと思うのですが、やはり予算編成とかの関係がありますので、今、この場で回数を、例えば年2回を年4回にしましょうとか、ちょっと具体的なお答えというのは、正直、事務局としてもお答えがなかなか難しい部分というのがあるのです。

ただ、皆さんのお話し合いの中で、今の状態では、やはり回数が不足していて議論が深まらないというようなお話があれば、当然、我々としても予算確保に動いていくということは、もちろんしていきたいなという気持ちは持っているところではございますので、私の今のお話としては、幾つかお話がある中で、例えば三つを掘り下げていきたいというようなお話があれば、ちょっとそれに関して必要な人員というのが、必要というか、回数とかも増やしていかないとちょっとそれは叶わないよねというところのお話をさせていただければ、事務局の方でそれに合わせてどこまでお答えできるのかというのを承った上で、この後、予算編成ですとか、そういったところで検討させていただくということで、ちょっと持ち帰らせていただければというふうには考えているのですが。

○中田委員

事前の、こういったものをどうしたらいいと思うかというのは、事前に課題を出してくださいと言われていたと思いますが、その意図は、元々は何だったんですか。特に、事務局側で来年はこういうふうにしていこうみたいなのを考えるときに、じゃあ委員の意見も聴こうというふうになったのではないかとはいっているんですけど。

○事務局・竹村課長

実際に、まず我々の第一の意図としましては、この場でやっぱり突然そういうふうにお話が出てきても、なかなかお話のまとめりというか、それぞれ重要なポイントというのを見える化しておく、今回この中でどのポイントを絞っていくかというのが共有していただきやすいのかなと

いうところを出していただいたというのがまず1点ですね。

あと、この中で、実際この御意見をもって予算の確保に動けたかというところというのは、ちょっと我々としても、そこまですいません、実際に頂いた意見の中でどこまで反映できるのかというのは、調査不足だったのは申し訳ないのですが、そういったところで、こういった御要望があるんだなというのを把握した上で、作業部会を作りたいというお話の方が結論で出るのであれば、ちょっとそれをもって、これから動いていくというところにはなってしまうところではあるんですけども。

○杉田部会長

一ついいですか。課長の予算確保ということの意味について確認をします。作業部会を作って予算確保みたいなことをおっしゃっていましたが、予算というのは、何に対する予算なのか。会議を開くためのこの会場費、人件費を押さえる予算のことを言っているのか、それとも、プロジェクトそのものに対する予算の確保、どちらのことを指して予算確保というふうにおっしゃっているのでしょうか。

例えばこのプロジェクトを一つ議論しましたと。それを実際に稼働させるための予算のことに関して予算確保というふうにおっしゃっているのか、会議を開くための日当のことをおっしゃっているのか、どちらでしょうか。

○事務局・竹村課長

私の今イメージとしては、双方あるかなと思います。

○杉田部会長

では、プロジェクトそのものに対する予算に対しての確保に動くという、そういう意味で捉えてよろしいでしょうか。内容にももちろんよるけども、そういうことはあり得るということで捉えてよろしいでしょうか。

○事務局・竹村課長

そうですね、例えばですが、プロジェクトを進行する上で講師の方をお招きするということがなれば、講師に対する謝金のお支払いの予算というのを増額する必要があるのかどうかですとか、あとは、部会長のおっしゃるとおり、実際会議を増やすということになれば、皆さんにお集まりいただくための報酬という部分もあるでしょうし。あと、実際開いていく上で必要なものというのが見えてくれば、そういったところの予算というものが必要になってくるという部分についても、予算というのが必要になってくるかなというところで、言葉としては抽象的になっていますが、今の予算上では、このこども部会、2回の会議を開いていただくための予算というところでの確保になっていますので、そのプラスアルファの部分についての予算確保という意味で、ちょっと申し上げた次第でございます。

○杉田部会長

プロジェクト本体の予算は、今の話には含まれていないと捉えてよろしいわけですか。それとも、会議そのものの予算、そのことをおっしゃっているのかなと思ったのですが。そういう理解でよろしいんですか。

○事務局・竹村課長

ちょっと私の理解力が足りなくてすいません。

例えばプロジェクトをする上で、今いらっしゃる委員のほかにメンバーを増やしてプロジェクトを進行させる。その方々が集まる上での日当が必要ということであれば、その分の予算確保ということも考えられるかなというふうには思っているんですけども。

○杉田部会長

では、会議そのものの予算ですか。例えばですね、何か障害者福祉のために必要なファシリティを立ち上げなきゃいけないという話になったときに、そういうものに対する予算というのは、課長の言葉には含まれてはいないということですね。

要するに、我々はここで必要なものを議論しているわけです。障害者福祉のために必要な、こういうものが必要。当然、全部ただでできるものは少ないわけですよ。我々のポケットマネーでやるわけではありませんから。市の予算として、これは考えていただかなくては困ることも山ほどあります。それで、我々が必要なものを議論した上で、それを市の方が、事務局の方がそれを吸い上げていただいて、これは本当に必要かどうかというのを議論のテーブルに乗せていただいて、それで新規事業でそれを申請するか否かというのをディスカッションしていただくと。それが、本来、先に進める大きな道だと思います。そこが、全く道が閉ざされてしまうと、我々もこうやって集まる意味は何だろうというふうに思ってしまうわけですね。

委員の方たちの議論の中で必要と思われることがあれば、それに対する予算も考慮しますというふうに、今そういうふうにおっしゃったと思うのですが、その予算というのは、どこまでの予算を念頭に入れて、課長はどのように返答されたのかということ、もう1回明確に御返答いただけますでしょうか。

お願いします。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

事務局として、ちょっと今のお話に少し関わるようなお話をさせていただきたいと思って発言させていただきます。

まず、中田委員の方からもありましたとおり、事務局と部会の委員の皆様が、やっぱりパートナーシップを組んでしっかりと取り組んでいくということは、とても大切なことだと私も考えているところではあります、事務局ができることと部会の委員さんができることというのを、や

はりこの部会の中でもしっかりと整理していくことは必要かなと。

あと、予算の話になったときに、すいません、予算に関してはどうしても行政として進めるべきことになりますので、私たち基幹相談として、ちょっと今のお話を聴かせていただいている中で、今、いろんな課題が皆さんから出していただいた中で、例えばですが個別支援計画に関しては、今、朝霞市内で医療的ケア児等コーディネーター連絡会というものが開催されていて、そこで個別支援計画については議論がされているところです。なので、こども部会において、委員の皆さんから、そこに課題があるんだということであれば、それに実際に取り組んで実証して行って、取り組めるなら、その医療的ケア児等コーディネーター連絡会に任せていこうよと。それをまたこども部会に報告として上げてもらおうというような、この部会と連絡会が連動するような、こういった仕組み作りをすることで、どこで、誰が、いつまで、どのゴールに向かってやるのかというところが明確になっていくのではないかなというふうにちょっと考えております。

予算を組む、組んでから物事が始まるとなると、やはり年度がどんどん後回しになっていってしまう可能性もあるので、やはり、この部会の中でも、今ある仕組みは何があるのかというところも整理をしながら、今の仕組みの活用と、これは今、朝霞市内にこの課題に対しては取り組む場所がないから、新しく作業部会を作った方がいい。その場合、予算が必要であれば、行政で動いてもらいましょう。例えば基幹相談とか元気キッズチルズとかでの委託の相談の中で取り組めることがあるのなら、そっちでやってもらおうとか。何かそこら辺の整理をしていくのが、この部会の進め方、在り方として、いいんじゃないかなというふうに、私としては考えているところになります。

以上となります。

○中田委員

よく分かりました。

おっしゃるとおり、ちょっと竹村課長がさっき話していたのは、来年度以降の準備ができるかもしれないというお話になると思っていて、取り急ぎ次の4月からどうするんだというところは、お金がありませんとなったときに、連絡会と部会の連動ということで、例えば全体会は、正直なくても、もういいかなという気はしているのですが、そこでできているはずだった人件費のところを、その連絡会にここのメンバーを何人が行ってもらいます、そこでちょっと議題としてこのお話をさせてください、実際に進められているという実務のところは見ながら、じゃあこういう要素を足していくといいよねというふうに、ちょっとプラスアルファの話ができていくようになればいいかなと思っています。

その先の未来の話、さっき竹村課長がおっしゃっていたところに関しては、実際、予算を取るの、私たちではなく障害福祉課とか、そういう自治体の中の方になるので、このテーマでやり

たいですと私たちが言うのと連動しづらいと思っています。実際、職員の皆さんとしては、福祉計画というのを数年ごとに出して、それに向けて行動して達成をしていかないといけないという目標があると思っているので、そこと関係性の深い、そしてかつ、我らがちょっと課題として何か言いたいような内容は、何かつなげられそうなポイントを探してほしいと思っています。

実際の行動に近しくて貢献できそうなところで、ただ、自治体としても課題があるというところは、共通認識なんだよというところに対して、我々が一緒に解決に向けたアプローチというのを具体的に検討していけたらいいなと思っているので、ちょっとそこところは、フリーフォーマットにされるのではなく、こういうのを一緒にやっていくというテーマで、やっていくんだらどうですかというふうなお声がほしいなとは思っております。という感じで、ちょっと来年の動き方と、その先の動き方についても、ちょっと違う軸で考えていくといいと思いました。

以上です。

○齋藤委員

私、いろんな研修に参加させていただいている中で、特に相談支援の方ですけれども、自立支援協議会との関わりというのを聴かれたりしているんですね。そうなったときに、朝霞市のそういう人たちは、実際は自立支援協議会で何をしているのかがよく分からないとよく言われたりするんです。私も、委員の立場として本当に情けないなとは思ってはいるのですが、そういう感じで何かちょっと開かれていないというか、ここの委員の中で話し合っているというようなイメージが、ほかの人たちから見るとあるというところなので、なるべく多くの人にこの自立支援協議会に関わってもらおうという仕組みができたらいいのではないかなと思っています。

それが、この本体というんですかね、本会議だったり、こういう部会というところだと、なかなか先ほどから出ているように、予算の問題があるというふうになると思いますので、その下に下部組織みたいな感じで作業部会という話が出ていたりとかしていますが、医療的ケア児等コーディネーターの連絡会も、もしかしたらその中の一つに入るのかもしれないですし、相談の連絡会というのも、どこにも一応付随していないような形にはなっていますが、特に、これは報酬は発生していないような感じだけど、自主的に集まっているというふうになっています。ただ、そこに集まることによって何か情報を得られたりとか、自分も学べたりというところで、それが報酬になっているというふうに感じてみんな参加しているというふうに思うんですね。なので、実際のお金がどうこうというところじゃなかったとしても、集えば人は集まるというふうに思っています。

なので、いろんな必要な動きがあるのであれば、集ってみるというのは、いいのかなと思います。ただ、その予算というところで言いますと、今日、実際に医療的ケア児の親子が参加してくださったのですが、中田委員の方からも交通費は出ますかという話を障害福祉課の方にしたとき

に、何かバスで来るということだったりとか、タクシー代は出るかとかですかね、そういうところも出ないという話があったんですね。実際、自費で来られたんですね。

○中田委員

ちょっと、私が出しました。

○齋藤委員

という状況になってしまっているというところもあるので、人件費としての予算という意味ではない、何かそういう部分も何かあったらいいのかなと思いました。

○中村副部長

中田委員が言っていた、大きな朝霞の課題に対して僕らが考えるというのだと、すごく時間も掛からずできるのかなと思っているので、何かフリートークの中でこの課題を出しましたというのが、幾つか今回出てきた中と、今、朝霞市が抱えている課題の中で、ポイントを三つとか四つとか、年間で考えられそうなテーマを逆に提示していただいて、ここで議論をするという方が、僕はやりやすいです。

なぜかという、予算を決めたりとか、行政にやってほしいことっていうのは、良いことのはずなので、それに対して話を深めていくのがいいなと思っているので、何かフリートークも、もう終わったので、次の段階までに、何か来年度の大きな目標はこれですよという提示をしていただけたらうれしいなと思いますが、どうですか、皆さん。

○中田委員

いいと思います。

日頃からこのテーマに近いところでずっとお仕事をされているので、今、この話を聴いている中で、あのテーマとかが良いのではないかなと、皆さん思い浮かぶのではないかという気が。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

すいません。事務局として、ちょっと今の御意見に対して、正に事務局として、市の中でこういった課題がたくさんあって、どれを取り組んでいったらいいだろうというのは、正に私たちも考える部分は当然あるのですが、そうすると例えば行政としては、やはり予算のことが一番頭にあるので、本来こども部会の委員がやりたいと思っていることでも、ちょっと予算上無理だなと思ったら、それが提示されない可能性も出てくるのかなと。すいません、逆の考え方にはなってしまうのですが。

○中村副部長

とてもいいんじゃないかなと思うんですよ。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

それはそれで。

○中村副部長

限られた予算の範囲で最適解を見付けなきゃいけないのであれば、今一番足りていないもの、福祉計画は僕が入って聴いているので分かるのですが、成年後見人問題とかいろいろあるじゃないですか。そういった本当に解決しなければいけない問題ってあると思うので、些細なことと大きな問題の中で、何が朝霞市として今足りないのですか、やらなければいけないのですかという中で、一つが、先ほど話題に出た、医療的ケア児の災害時個別支援計画が進んでいないのであれば、一緒に、うちも元気キッズチルズでやっているの、そこで進めていくのをここで発表するし、どこに任せばいいのか、何かチェック機能としてこども部会があるべきかなとちょっと思うんですよ。何か問題提起をする、それは、ここで雑談なりすればいいんですけど、という中で、朝霞が一番大事にしている、今やってほしいということに対して、じゃあどこだったらできるのと聴いて、それは任せましょう、困っていますね、そんなところに会議終わって情報を頂いたときにチェックをして、そうなのか、承認です、いいですねみたいな流れだと非常に仕事がしやすいですね。それぞれが、多分いろんな仕事を抱えている中であるので、一番分かりやすいのがそれ。あとは、ほかにもやっているところがあるので、その情報をチェックする。チェックをするというのがやりやすいと思っています。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

例えばですが、これは一つの提案にはなりますが、取りあえず、事務局として考える課題も当然ありますし、委員も委員としてそれぞれの立場で考える課題、こういったものを市内で取り組んだ方が良くはないかという課題もそれぞれあるというところで、アンケートも取らせていただいている中で、例えばお互いにパートナーシップを組んでいく中で、お互いに提案していくような、部会の中でお互いに提案していくような場になっていくと、私は、とても良いなというふうに感じていまして。事務局からだけ、これをやりましょう、委員さんからこれをやりましょうの0-100の関係ではなくて、お互いに提案をした上で、じゃあ今できることって何だろう、この課題に対しては、どこで取り組めるだろうか。何かそういう擦り合わせができる部会になっていくと、とても前に進んでいくのではないかなと、私としてはちょっと感じる部分がありまして。

○杉田部長

すいません、正にそれに大賛成、賛同したいと思います。今の仲田さんの御意見。

我々が、先ほどフリートークという言葉で、正にフリートークになってしまっていたわけですね、何年間も。それで、こども部会から事務局に、提言という形を我々は取りたい。これがいいよ、専門家の意見としてこれがいいよという提言をしても、どこ行っちゃったの、その後全く響かないし事務局から返ってくることはない。例えばこういうことをプロジェクトした方がいいと

言って、こういう理由で専門的な理由でという提言をしても、それに対して例えばすごいお金も掛かるし、ちょっと無理があるというようなことも実際はあります。それに対して完全にスルーしているんじゃないかと、全く返答もないし無視されているという、そういう感情しか持てない。黙らせようというふうに考えているんじゃないかというふうに疑ってしまうような言動すら、事務局からは感じられます。それでは、信頼関係が持てない。キャッチボールですよ。例えばこちらが提言したのに対して、ちゃんと行政マンとして、これも前回言いました、行政マンとして、プロフェッショナルの立場として、それは現実的にはできませんとかね。その理由はこう、あるいは、それはここの部分は採用できますといった、そういったプロの行政マンとしての返答というのがあるわけですね。この辺は、ここの部会では、事務局の方からプロの返答を聞いたことがあんまりない。はっきりしたこと。プロの行政マンというのは、そういうものだと思うんですね。それをキャッチボールすることが、やっぱり理想だと思います。今は、完全にフリートークをさせて我々は聴いているだけというような、そういう形の会議がここのところ何年間か続いていたと思います。

我々は、実際に提言したことに対して返ってくるものもあれば、返ってこないものもあるし、全然聴いていない。聴いていないのなら、返答がないんだったら、なぜそういう理由でそういう返事ができないかというようなことも、フィードバックが一切ない状態で、コミュニケーションが取れてないというのは、私も逐一そう思っていました。それでは前に進まないの、仲田さんからの意見として、僕はこれは大賛成で、そういうふうにお考えの方が事務局にいらっしゃるのであれば、そういう形で積極的に進めていきたいというふうに思います。

○中田委員

ちょっと机の形が悪いんだよみたいな話、よく事務局に、この形が嫌なんですという相談はしていたと思うのですが、こうすると前に向けてしゃべるので、事務局と会話したいと思うと、こうなるみたいな感じになっちゃうので、パートナーシップでお互いが提案していくというんだったら、多分、机の形はこうじゃないでしょうと思っているので、やっぱり、この机の形は本当に変えてほしい。

○齋藤委員

賛成です。

すごい、最初に違和感を感じた。

○中田委員

でも多分、このスタイルがデフォルトなんだろうと思うんですけど、会議として市役所の中では、とは思いますが、ちょっとそこは、やりたい目的に合わせた形であるべきだと思うので、ちょっとその形は変えたいなと思っております。じゃあどうしたらいいのとなるんだった

ら、私が書くので、それで机をやらせてくださいという感じで。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

正に机の形、座り方というのも会議体で結構重要な。私も相談支援をやらせていただいている中で、やっぱり相談を受けるときに相手の目の前に座るのか、ちょっと斜め横に座るのか、真横なのか、やっぱり座る位置で全然相手に与える印象って変わってくるものだと思いますので、正にこういった会議体の形の在り方としても、やっぱり座る位置というのはとても重要なんだろうなというふうに感じております。

そういった中で、ただ、事務局として、例えば中に入りすぎてしまうと、皆さんの議論をもしかしたら止めてしまう可能性もあると自分も考えています。

○中田委員

そんなに簡単に解決しない課題なんだから、もう全員横で並んでもいいぐらいだと思っています。もし、出過ぎとなったら、ちょっと出過ぎたねとちょっと踏みとどまればいだけなので、まずは、本当にこれはやめてこの中に入ってほしい。今日の午前中も皆さんに、本当に中に入ってください、中に入ってほしいとお願いして、なんでみたいな顔をされてましたけど、中に入ってほしい。別に何かをそんなに要求したり、まあしてますけど、でも、この隊形でもしますし。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

分かりました。委員の皆さんが、是非、この座る位置の形も変えていきたいよという御意見がもしあるようでしたら、皆さんの御意見としてあるようでしたら、事務局としても、それはちゃんと検討させていただいて、提案を次にまたさせていただく。このようなキャッチボールを今後させていただく。0-100ではなくて、50-50なのか、そのときによって、20-80になるのか、いろんな形はあるとは思いますが、今後は、そういった形で意見を一緒に議論をさせていただくような、そのような部会作りも、事務局として努力はしていきたいと思っております。

基幹相談支援センターも今年度は7月から設置をさせていただいて、我々は入らせていただいていますので、委員から頂いた提案も、行政と私たち基幹相談支援センターでしっかりと揉みながら皆さんに返していくような、このようなやり取りはさせていただこうと思っておりますので、よろしく申し上げます。

すいません、今日の議題を整理するところまでは、まだ私たちも受け取ってばかりで、まだ整理ができていないので、これをやりましょうよというような提案までは、ちょっと本日はできない部分は、大変難しいのですが、是非そういった形で議論をこちらでもしっかりとすね、委員に提案をできたらと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○中田委員

さっき中村副部長がおっしゃっていた、三つか四つのテーマをちょっと出してほしいなというところが出たら、スタートラインになるのかなと今何となく思っているのですが、それが出てきた後、どうしようというのが、次の会議のときのテーマになると良いという感じ。その辺、何か遅そうな気がしますけど、それぐらいかなという。

○杉田部長

今、スピード感としては非常に遅い。あっという間に数年経過してしまうようなスピード感ですが、何も進まないよりはと思います。ちょっと我々も、いろんなことをしゃべって、そこで完結して終わってしまって、次に結び付いてない状態が、非常にこれは何のための集まりなのかと、先ほど齋藤委員からもありましたが、もどかしい思いをしておりましたし。

先ほど仲田さんが言われたように、そういう形で会議体が進めていければ、これは理想の会議だと思いますし、我々がいろんなことを提言して、それに対する事務局の反論もあったりですね、それに対して、我々も反論するわけです。それが、全然キャッチボールができていない中で、我々が好き勝手なことを言って、はいじゃあどうなっちゃったので終わってしまっている。それでは何もことが進まないの、是非、キャッチボールですね。本音、もう恨みつらみを持ちながらも、お互い感情を大人なのでできるだけ抑えながらですね、ディスカッションするということがやはり必要だと思いますので、是非、そういう形でこのこども部会を進めていきたいかなというふうに、私は希望しております。非常に今の仲田さんの方の意見を聴いて、私はちょっと気持ちが明るくなりました。ありがとうございました。

どなたか、じゃあ御意見。事務局も含めてありましたら、お願いします。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

すみません、「令和8年度のこども部会に向けて」という議題になりますので、一つだけちょっと御提案をさせていただきたい部分がありまして。先ほどお伝えしたように、朝霞市内では元気キッズチルズが主体的に取り組んでいただいている「アサカツ」の活動であったりとか、あと医療的ケア児等コーディネーター連絡会というものが開催されていて、そこで計画相談の相談員が中心にはなりますけれども、そういった連絡会があったり。あと、齋藤委員もおっしゃっていた、相談支援の今ネットワーク会議もやっているところがありますので、そういったところに、このこども部会で皆さんから頂いたいろいろな課題ですね、まだまとめているわけではないですが、こども部会でこういう意見が出たんだよ、みんなで取り組めることはないかねというような、この部会と各種連絡会のつなぎをしていけたらいいなと。

それを持って、いろいろ実働が出たりとか、やっぱり私たちだけでは難しいから、もう一度こども部会で議論してもらおうよというような、そういった御意見があればまた戻したりとか、そ

ういったところは、私たち事務局が、こういった連絡会を開催していたりとか、顔を出させていただいていますので、そういった情報をつなげていく。まず、一つの提案ですけれども、そういったことをさせていただくことが可能かどうか、そういったところをちょっと、こども部会の委員の御意見も頂いて、決議していただければなというふうに考えているのですが、いかがでしょうか。

○中田委員

それをやっていいなら、もうその方向で進めてしまえばいいと思っています。こども部会を1回ばらすのか、全体会を1回ばらすのかは、障害福祉課の皆さんに決めていただければいいと思いますが、そこで使うはずだった費用的なところを、その連絡会にちょっと数人ばらして、本当に行かせてもらった方がいいと思っています。実際に、その会議に出ていないで伝達する伝書鳩みたいなことをされて、質問をされてもその場で答えられるわけでもないみたいになっちゃうと、ちょっとごちゃごちゃしてしまうので、どうせだったら、その伝えていただく場にこの中の誰かが一緒に行きますみたいな。もう、そもそもそのメンバーですみたいな方もいらっしゃるの、一緒ではありますけども。

○齋藤委員

何か今のお話だと、医療的ケア児の連絡会と相談支援のネットワークというワードが出ていたのですが、それは、もう私たちはつながっているので、その仕組みができているところは、もうそれを使えばいいのかなと思っています。それ以外の作業部会を作りましょうみたいなお話が出ていたので、そのつながりが無いもので、じゃあどんな部会というか作業部会を作るというところまでは、皆さん多分一致していたんだと思うのですが。それは、どんなものが必要なのかということとか、どんなメンバーを集めればいいのかとか、そういう感じがいいのかなと思うんですけど。あるところは、私たち特に相談も2人いますし、基幹も入っているということで、そこはもうつながっているのかなと思うのですが。いかがでしょうか。

○中田委員

そこで例えば災害時個別支援計画の話をするときに、ちょっと目標感とか、本当はあるのかもしれないけど知らないの、本当はあるものもあるのかもしれないけど、こういう目標感でいこうと思ってますみたいな話がある場で、もうちょっとそういうふうに、作業部会。本当の連絡会の目的をあんまり障害したくないので、何かちょっと難しい。悩ましいなと今、しゃべりながら悩んでしまうなと思ったのですが。お邪魔することで、そちらの開催目的に侵入してしまうから、ちょっと難しいですね。すいません。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

それぞれの連絡会が開催されている目的というのは、やはりあります。

ただですね、そこにやっぱり朝霞市全体の取組の中でそういった連絡会が取り組まれる方が、本来はいいんだと思います。それが何か独立的に何か勝手にやっているのではなくて、ちゃんと市の取組じゃないですけども、市の中でしっかりと取り組まれるということも含めると、やはりこども部会で話されていることが、そういった連絡会でも共有される仕組みというのは、とても重要じゃないかと感じているので、決して中田委員がおっしゃるように、元々の目的を阻害するようなことはないとは私と考えているところです。

ただ、事前にどういったことを伝えていこうかというのは、その連絡会なりそういう会が開催される前に、少し参加される委員とお話はさせていただいて、じゃあこのぐらいの時間を取ろうとか、こういったことを伝えていこうというところをまた、このこども部会だけでは、なかなかそこまで話し合えないのであれば、メールとかでのやり取りも含めて検討していけたらいいんじゃないかとは思っております。

○中田委員

みんなが、結構そろってLINEが難しいという声は聞いたのですが、そうしたら何らかのビジネスコミュニケーションツールみたいなのを、皆さんが使ってるやつもちょっと呼んでいただくのができれば、そういったコミュニケーションも可能なのかなとは思っております。

お二人が参加していない連絡会で、例えばどういうものがあるんだっけみたいなところが、あんまり頭の中に入っていないので、ちょっとそこを。

○齋藤委員

子供のというと、「アサカツ」には、私たちは参加していないということですね。

○中田委員

あとは、元気キッズ主体でやっているやつですかね。

○齋藤委員

そうですね、だから、委員が誰も入っていないというもので、何か動いているというのは、事務局に聴いてもらった方が良いかもしれないのですが、ありますか。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

今後、「アサカツ」の方には、私たち基幹相談も呼んでいただきたいという御要望をチルズにもさせていただいたところなので、次回から私たちも参加する形にはなります。

なので、事務局としてもそっちに関わっていく。関わっていくというか、その場がどういう会議体であって活動をされているのかということも把握はしていけますし、あとは、平野さんともちゃんとお話をさせていただきながら、このこども部会のことをどうやってその「アサカツ」の中で伝えていこうかという議論もちゃんとさせていただきながら、伝えていくことになるかなと考えております。

あと、医療的ケア児等コーディネーター連絡会と相談支援ネットワーク会議というのがあるのですが、そちらに関しては、齋藤委員、野原委員、基幹相談、朝霞市障害福祉課も出ている会議になりますので、ここでの議論というのは、正に伝えやすい形になっています。

○中田委員

それ以外は、ない。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

はい。各種連絡会は、いろんな分野にまたがっていろいろと連絡会はあるのですが、子供、要は児童の療育支援に関わる連絡会というのは、今、代表的なのはこの三つの連絡会議になっております。

○中村副部長

質問です。先ほどフリートークの中で課題が、問題点としてあったのが、まず、相談窓口。一般の方たちとか、先生たちの相談窓口の解決方法等が結構大きな課題でした。

今日も、ヒアリングしたときに先生たちが困っているよ、お母さんにどうやって背中を押したらいいのか分からないよとか。先に療育を受けた子の方が、発達課題がかなり抑えることができているよという実感もあるよ、これは、エビデンスはないですけど、あるよというお話を聴きましたとなると、そういうのがあった方がいいんじゃないのかというのが、1個大きなテーマが一つありました。

だけど、そこに対して多分連絡会はない。となると、新しいものをしないといけないという大きなテーマが一つ決まります。決まったのか分からないけど、決まってほしいなと思っています。

今、それぞれの連絡会でやっていることは続いているので、その情報をこども部会に上げれば、そこで僕らはそれを精査できたりとか、そういうことなのか、分かったみたいに安心もできるし、進めることができると。これで二つ目ができました。

あと、もう一つとしては、僕が言ったのは、療育の質だったりとか、そういった障害福祉の質の向上のことを言ったのですが、そのテーマは、特にもう議題がない。「アサカツ」でやれることはできるかもしれないけどというところが、この会議の中で言ったのが、そのぐらいの三つのポイントなのかなと思っているので、そういったところをまとめてもらって、それでいいですかのターンでスタートしたいというのが、さっき要望だったんですけど、何か細分化してしまったので、この場でフリートーク、良かったと思っていて、その中をカテゴライズしてもらって、それに対してこれで行きましょうというのであれば、多分、次年度はすっきり行けるのではないかなと思うので、三つ、四つみたいなのをちょっとしたので、先ほど。こんな感じでどうですかね、何かここで細部を決めちゃうと、ちょっと難しそうな感じもするので。それを作り変えてい

いんじゃないかなと。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

今、中村副部長から頂いた三つの大きな柱ですね、それに対してどういう取組ができるかというのを、例えばですけど事務局としてこういうふうな取組ができるんじゃないですかと、また委員の皆さんにちょっとお諮りいただきたい部分は、正直あるんですが、そういった形でのよろしいでしょうか。

確かに適切な療育支援、やっぱり質の向上をどう目指すかというのは、非常に難しいし、どこが取り組むんだという課題は、当然あるかなと思っております。

今、医療的ケア児等コーディネーター連絡会という名称なので、当然、医療的ケア児のコーディネーターの連絡会なので、そういった医療的ケアに関する議論が中心にはなりますが、やっぱり子供の課題は、多岐にわたる部分もありますので、その中で、今、医療的ケア児等コーディネーター連絡会の中では、プロジェクトを二つに分けて、個別支援計画の作成の部分と医療的ケア児への支援の向上みたいところを今取り組んでいるんですね。そこから派生させながら、全体に。

○中村副部長

すみません。それは、細分化した議論で、僕らがほしいのは、来年度この部会で、今ヒアリングしてきたことも含めてお題目がほしいという話を僕はしているので、その細分化したものは、その都度上げてもらえばいいなと思うので。質の向上に関しては、質の向上で話しましょう、一般の方だったりとか、一般の働いている保育者だったりとか、実際、子供に関わっている方たち、当事者の方たちに対して、もうちょっと保護者への理解だったりとかへ進む仕組み作りってどうするの。だったら、今日みたいな園長先生との話し合いをした方がいいよねとか、何かそういうことで、こども部会はあるべきかなと思うので。

ただ、細分化したものは連絡会でやっていただいて、ここでチェックするでいいんじゃない。同じ話です。だから、ほしいのは、今、何も無いから、見取り図が。その三つのことについて話しましょうよがほしいんです。それを今回話したから、次、くれと思っています。くれじゃ駄目なのか。

○中田委員

いいと思います。前に、幼保連携で行くぞと言って、ここで決めたものが、次のときに無理でしたと言われたじゃないですか。

○杉田部長

そうですね。

○中田委員

だから、こっちで決めると、やっぱり実現のところでは整合性が合わなくなってしまったときに、何にも代わりにとかいう話ができなくなっちゃうから。やっぱり、ここではこういうのがいんじゃないかというのは言うけど、その中でやれそう、これをやったらいいというところは、そちらから投げないと進まないと思う。

だから、三つ四つのお題目をくださいというところが、次でいいと思います。ちょっと連絡会に行きましょうみたいなのは、ちょっとそこはそこで、今年度できることにつながる部分だと思うので、そこはお題目の中にどう入れるかというのは、そこはうまいことやっていただくところだといいなと思っています。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

中村副部長、まず、すみません。二度も説明させてしまいまして申し訳ございません。

要は、この部会の中で何を議論するかのテーマ設定を事務局からも出してほしいよねという、すみません、簡単にまとめてしまったのですが、そういったこと。

○中村副部長

それだけがほしいです。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

そういう理解でよろしいでしょうか。

それともう一つすみません、ちょっと細かい話になってしまいますが、幼保小連携をしていこうとなったときに、より具体的な取組方法を事務局から提案した方がいいのか、私たちとしては、1回幼保小連携が必要だよ、必要だと感じていますといったときに、じゃあこの場でこの部会の中で、ここで声を掛けていったらいいよね、事務局としてこう動いた方がいいよね、委員としてここにつなげられるかもしれないねというような、そんな議論がここでされると、私たちも動きやすくなりますし、委員の役割も明確になっていくのではないかというふうに、私としては感じているところなのですが、それに関しては、いかがでしょうか。

○杉田部長

いいですか。正に僕は賛成で、結局、全員で知恵を出し合うということですね。それで、事務局の方からもこれが良いんじゃないか、我々もこれが良いんじゃないかと知恵を出し合った中で、お互い合議をして決めていくという形が理想だと思いますので、我々だけで決めるというよりか、事務局も知恵を出し合って、どうやれば連携を図れるかということですね。それをやっていくことが、僕はいいと思います。

委員から事務局への一方通行なのか、事務局から委員への一方通行なのか、そういうのではなくて、あくまでもディスカッションです。それが必要なので、それはもう誰が、今座っている

方、はいつて手を挙げていただいていたいいんですよね。こっちがいいですよとかね。そういう形で、全員が発言できる環境でやっていきたいと思いますので、それは大賛成でございます。

○中田委員

今の幼保小というのを例えばで提示していただくときに、連携方法まで行ってもらわなくていいと思ってるんですよ。解決したい課題は、こういうのがあると思いますよね、どうしたらいいと思いますかでもいいと思っていますので。ただ、その後ろ側として、ほかの会議体の人件費をばらして、1個イベントをやるときのあるところを使うとかいうような、多分アプローチとなったら、どうしてもそうなると思うので、その想定される、多分どこかに行く、どこかに行って話すみたいになったときも、その日程とか人間、人件費とかの調整みたいなところを想像しながらちょっと準備だけしてもらおうと、こちらに出すものは、もう簡単でいいので。後ろ側のところとかをやってもらっていると、うまくその後に続きやすいのかなと思うんです。

○事務局・朝霞市障害者基幹相談支援センター・仲田氏

ありがとうございました。

○杉田部会長

ありがとうございました。

では、この点に関してはよろしいですね。

◎2 議題 (4) その他

○杉田部会長

あとは、全体を通して皆さん何か御意見ございますか。

我々は、一つ、「こども部会」という名の下で、使命感で集まっているメンバーです。それこそ営利目的もなく、使命感だけで集まっているグループです。ですので、毎年目的は多岐にわたっているとはいえ、生きづらい子供たちを支援するのが目的なので。それが、その目的に関しては、当然、事務局も皆さん、共有していただければと思いますので、是非ですね、我々が困ったことがあれば、事務局も手を差し伸べていただきたいし、事務局が困っていることがあれば、我々は手を差し伸べることができる場だということをはっきりしていきたいと思いますので、今後、その辺のコミュニケーションを取りながらやっていくということで、是非、よろしくお願いいたします。

では、よろしいですか。

◎3 閉会

○杉田部会長

それでは令和7年度第5回朝霞市障害者自立支援協議会専門部会を終了いたします。

本日は、長い間、朝からもありがとうございました。